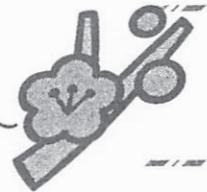


礼  
い  
は  
拝  
い  
は

令和7年2月17日  
7号

「涅槃会（ねはんえ）」  
～明るく正しく親切な人になろう（三宝帰依）～



本日は、涅槃会の法要をお勤めしました。涅槃（ねはん）とは「吹き消す」という意味をもつ「二ルヴァーナ」というインドの言葉を音写したものです。つまり、煩惱や執着が吹き消された覚りの境地を意味します。それは「智慧あるが故に生死にとどまらず、慈悲あるが故に涅槃に住せず」と表現されます。仏さまの力で迷いを破る働き（智慧）があるので、自分は覚りの世界にずっと存在し続けることができます。

さて、お釈迦さまは「調（ととの）つた生き方をするためには三つの大切なもの（仏法僧の三宝）を生活の土台とする事（帰依）が大切である」と教えられました。それが本校の建学の精神である「三宝帰依（さんぼうきえ）」なのです。

○仏（ブッダ）とは、一点のくもりもない大宇宙の真理の中で、私の命が生かされていることへの気づきと受け止めることです。○法（ダルマ）とは、過去から現在そして未来へと、連綿と受け継がれている無数の命が、互いに支えあって、今の私の命が生かされていると受け止めることです。○僧（サンガ）とは、私の命を支えている無数の命に心から感謝し、思いやりをもつて互いに助け合い、平和な世の中を築いていくとする心が大切であると受け止める 것입니다。○仲良く生きる

「心から三宝を敬いなさい。三宝とは仏僧のことです。命あるものは全て、最後は仏になるのですから、誰でも仏になる道を貴ばない者はいません。中にはどうあつてもそれを貴ぼうとしない極悪人もまれにあります。が、ほとんどの場合、最初からの極悪人、生まれついての極悪人などはいませんから、きちんと教えれば、誰もが納得して正しい人間になれるのです。だからこそ、仏法僧を敬うことしつかりと教育していかなければならぬのです。」つまり第二条は、議論にあたっては教養のある人になりますようにと説いています。

お釈迦さまがお覚りを開かれてから二千五百年以上の時が流れようとする現在、改めて三宝帰依の精神を生活の基盤とし、全世界が平和になることを願うとともに、みなさんが、本校で学んだことを暮らしに生かし、よりよい行動につなげていける教養のある人になることを心から願います。

るので、覚りの世界にとどまらず、苦しんでいるすべての人を救い続けます、といふあり方が真実の涅槃であり、仏の覺りなのです。

さて、お釈迦さまは「調（ととの）つた生き方をするためには三つの大切なもの（仏法僧の三宝）を生活の土台とする事（帰依）が大切である」と教えられました。それが本校の建学の精神である「三宝帰依（さんぼうきえ）」なのです。

○仏（ブッダ）とは、一点のくもりもない大宇宙の真理の中で、私の命が生かされていることへの気づきと受け止めることです。○法（ダルマ）とは、過去から現在そして未来へと、連綿と受け継がれている無数の命が、互いに支えあって、今の私の命が生かされていると受け止めることです。○僧（サンガ）とは、私の命を支えている無数の命に心から感謝し、思いやりをもつて互いに助け合い、平和な世の中を築いていくとする心が大切であると受け止める 것입니다。○仲良く生きる

「心から三宝を敬いなさい。三宝とは仏僧のことです。命あるものは全て、最後は仏になるのですから、誰でも仏になる道を貴ばない者はいません。中にはどうあつてもそれを貴ぼうとしない極悪人もまれにあります。が、ほとんどの場合、最初からの極悪人、生まれついての極悪人などはいませんから、きちんと教えれば、誰もが納得して正しい人間になれるのです。だからこそ、仏法僧を敬うことしつかりと教育していかなければならぬのです。」つまり第二条は、議論にあたっては教養のある人になりますようにと説いています。

お釈迦さまがお覚りを開かれてから二千五百年以上の時が流れようとする現在、改めて三宝帰依の精神を生活の基盤とし、全世界が平和になることを願うとともに、みなさんが、本校で学んだことを暮らしに生かし、よりよい行動につなげていける教養のある人になることを心から願います。